

#つなごう改憲反対 連続講座 特別回

安倍元首相の国葬に反対する

弔意と礼賛を押し付けるな
自民党と旧統一教会の癒着解明を

今日の講座について 2022/09/04



1

(1) 国葬は、安倍元首相を賛美し、その「業績」を引き継ごうとするもの

- ・国葬は、安倍を「偉大な宰相」として賛美し、その極右政策を礼賛し、政治私物化と反動政策の罪を覆い隠す。
- ・集团的自衛権を合憲とし、戦争法を強行採決で成立させた。自衛隊を米軍の対中国戦争、侵略戦争に参加する軍隊に。
- ・沖縄の辺野古新基地、高江のオスプレイ・パッド建設強行。宮古島など南西諸島のミサイル基地化推進。
- ・教育基本法改悪。教育を子どものためではなく国家のためものに。
- ・秘密保護法、共謀罪法などの反動的法整備。

2

(1) 国葬は、安倍元首相を賛美し、その「業績」を引き継ごうとするもの

- ・改憲の執拗な追求。発議要件緩和の96条改訂から、自衛隊の9条への書き込み、9条や「緊急事態条項」4項目の改憲など。
- ・「アベノミクス」による格差拡大と非正規雇用拡大、消費税増税、生活悪化。
- ・モリ・カケ・サクラなど、政治の私物化と腐敗。
- ・安倍は統一教会と自民党とのつながりの中心。自民党の政策に統一教会が大きな影響。これらも国葬で覆い隠す。
- ・安倍国葬は、安倍の政策を引き継ぐ岸田首相を権威付けるものでもある。

3

(2) 国葬は、弔意を強要するもの

- ・岸田内閣は、広く弔意の掲揚などを求める弔意表明の閣議了解を見送った。過去の国葬でない首相経験者の合同葬でも、弔意表明をしていた。今回、見送ったことは、国葬への批判を無視できなかったということ。
- ・それでも、国葬の際には、有形無形の弔意の強要が行われるのは間違いない。
- ・7/12の安倍の葬儀に際し、いくつかの教育委員会が学校に半旗掲揚を要請。陸上自衛隊の特別儀仗隊がずらりと並び、音楽隊が演奏。国葬ともなればこれとは比べものにならない。
- ・国葬は天皇制の政治利用の場でもある。岸田政権は、安倍に対して最高位の勲章を授与することを決定。葬儀には多数の皇族が参列。

4

(3) 法的根拠もない国葬に、莫大な税金を投入

- ・国葬の法的根拠はない。戦前からあった国葬令は1947年12月31日に失効。
- ・岸田は、内閣府設置法「国の儀式並びに内閣の行う儀式及び行事に関する事務に関する事」とあることをもって、閣議決定で「国の儀式」としての「国葬儀」ができるとして、強行しようとしている。
- ・岸田は、「弔意を国全体として示す」とするが、「国全体」のことを国会にも諮らず、内閣の一存で決めることなど許されない。
- ・国葬の費用は2億5000万円は、すべて税金。これに含まれない警備費や接遇費について、政府は明らかにしない。実際には、この何倍もの費用がかかる。多くの人々が生活苦に追い込まれる中、このような巨額の税金を投入して国葬を強行。

5

(4) 国葬反対。臨時国会を開け

- ・岸田政権の支持率が急落。毎日では、支持率が36%（7月から16ポイント減）。不支持率は54%（17ポイント増）。支持と不支持が逆転。内閣改造で支持率が下がるのは異例。
- ・統一教会への対応に対する批判が非常に強い。内閣改造の大失敗。朝日では、統一教会を巡る問題への対応について、「評価する」は21%、「評価しない」が65%。
- ・国葬にも反対が増加。朝日では、安倍国葬に「賛成」は41%で、「反対」の50%が上回る。ただし、60代以上では反対が賛成の倍だが、18～29歳は賛成が反対の倍。

6

(4) 国葬反対。臨時国会を開け

- ・岸田政権は、8月の臨時国会を3日で閉じ、野党の国会開会要求を無視。国会を開かないのも安倍のやり方そのもの。短時間の閉会中審査でなく国会を開け。
- ・各地で反対行動。8/31国会前には4000人。
- ・Change.orgのネット署名も少なくとも5種類。最多のものは約15万筆。
- ・国葬決定と内閣改造で大失敗し、岸田政権は追い込まれている。しかし、追い込まれているからこそ、国葬を強行し、「厳粛」な行事で権威を高め立て直しを図る。国葬を中止を目指し、反対運動を続けること自体が厳粛な雰囲気壊し、岸田の狙いを挫く力となる。

7